

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 13  
2023・9・25

1 農業大臣会議：家畜飼育のさらなる発展、農村女性のジェンダー平等を  
一オオカミ、共同課題（海岸保全）、漁業に更なる決定一（2023・9・22）

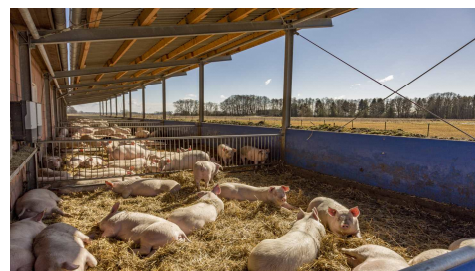
連邦と各州の農業大臣は、キールにおける2日間の秋季会議において重要な決定に合意した。連邦食料・農業大臣オズデミールが、これについて説明した。



2023年秋季農業大臣会議

**家畜飼育のさらなる発展**

”我々は家畜飼育のさらなる発展でもって、農場の壊滅阻止に取り組む。そのため、ドイツの良質な肉を将来とも確保することとし、「メイド イン ジャーマニイ」の維持に配慮する。これを実現することから、十分かつ信頼される財政投資が絶対的な必要条件である。このため、当面通常財源から10億ユーロ（約1500億円）を、養豚部門に計画している。



広々とした豚舎で外気に触れる。

我々はより多くの家畜の種のために、そしてさらなる販売のルート確保に、さらなる財源の必要なことを認識している。

1つの可能なデザインについて、交通信号一議員グループ（訳注・連立政権）が、幾つかの提案をもっている。勇気ある決定はもはや妨げられない。”

### オオカミの管理

”我々はオオカミの棲息圏拡大に伴い、農業者との紛争の可能性が高まっていることを知っている。私は今後も引き続き、羊、牛そして山羊が可能な限り、安全に牧草地にいられることを望んでいる。そのための対策は、簡単にそして法的に確実に実施されねばならない。我々は早急な行動を必要としている。現地での実施により良く役立つように。地域的な特殊性、例えば堤防、高原の牧草地は勿論考慮に入れねばならない。農業者は当然我々の支援を待っている”。



オオカミは虎視眈々と狙う。



オオカミに襲われた羊

### EU共同課題「農業構造と海岸保全（GAK）」

”我々は農村地域のためにより多くの財源が、必要なことに合意している。そのため、困難な財政状況による減額は非常に苦痛なことである。各州は今ある財源のより良い活用を可能にするために、柔軟性をもって使用できるようになった。私は連邦議会での財政審議に際して、農村地域の補足財源の準備を希望する。各州の農業大臣が我々の関心事を支持し、さらに決定を下したことは良いことである。これは主権者に対して強いシグナルである。”

### 適切な農業と有機の現状のための基準（GAEC8）

”我々は土地と種の多様性保護のために、そしてウクライナの作物不作を補うために、いわゆる休耕を中断した。しかし、最初のデータによると、最早ヨーロッパではこれ以上穀物生産はされなかった。そのため、農業大臣会議（AMK）は、穀物生産を促すことから休耕中断の決定は行わない。我々は多くの危機のため、例えば気候と種の絶滅、飢餓から戦争まで、重大な問題解決を必要としている。”

### 農業における女性の状況

”女性無しでは農場は成り立たない。女性は今、農業、農村地域においても体系的に関連している。女性はしばしば2つまたは3つのボールだけでなく、さらに多い5つのボールを、巧みにジャugglingしている。

我々は今なお、農場でのジェンダー平等からほど遠いところにある。農業と農村におけるジェンダー改善の重要であることを、強調しなければならない。これは我々全て一連邦そして各州のみならず、団体、科学、経済そして家族で同じように、目的に向かっていくことが重要になっている。”



女性は農業の重要な担い手



農業・農村におけるジェンダー平等を

### 漁業の将来

海上での風力エネルギーからの資金は、我々に大きなチャンスをもたらす。我々は漁業において必要な変革プロセスを、積極的にサポートする。我々にとって北海ーバルト海における漁業の持続可能な未来のみならず、漁業者にとって実行可能な収入の選択肢が重要である。我々は今、このための全体構想を提示し、そして各州、各団体も含めてつかの間の感激に掻き立てるのではなく、漁業に関する長期的な視点を提示する。



バルト海のカニ漁船



バルト海ニシンの絶滅が危惧される。

## 2 連邦食料・農業省：ドイツ園芸デーに持続可能な園芸を表彰

ー 2023 年度 2 つのプロジェクトに園芸革新賞をー (2023・9・8)

ドイツ園芸協会 (ZVG) 主催のドイツ園芸デーに際して、連邦食料・農業省はマンハイムで 2 つの園芸会社に「ドイツ園芸革新賞」を授与した。

受賞者は「持続性と成果は手に手をとって」のベルゼンブリュックの「有機栽培苗床ゲールス」並びにシュトラレーンのヴァンメンゲンのプロジェクト「革新的な持続可能性」の構想である。



園芸革新賞を受賞した 2 つの  
会社代表者

これについて政務官 Dr. オフェリア ニックが述べた：“今年の受賞者は模範を示している。つまり、気候一資源保護に経済的に取組み、将来を指向している。このプロジェクトは、革新的なアイデアと模範的な活動で我々を納得させてくれた。同時により多くの持続可能性への道を、そして園芸部門における革新の可能性を明確に示してくれた。私は両方の受賞者を心からお祝いし、将来性のある我々の園芸を、さらに発展させることをお願いしたい。”

両受賞者はそれぞれ 7 500 ユーロ (約 112 万円) の賞金を手にする。

連邦食料・農業省は審査委員会の推薦に基づき表彰した。表彰理由は次に要約している。

### 有機樹木苗床 ギアーズの企業構想「持続可能性に手に手をとって」

有機認証農家の少ないこの地域で有機産物への需要が少ないことから、将来に向けて有機樹は苗床ゲルゼンブリュックは大きなモチベーションをもって、将来課題に取り組んでいる。同時に経済的にも地域を支え得る全体構想に結びつけている。首尾一貫して追求している持続可能性の構想も、この全体構想を基礎としている。現代的なそして目を引くデザインは、特に若いグループに人気がある。このため、専門的な組織と国際的な方向性をもったギアーズ有機樹木苗床は、他の園芸企業にも情報を提供している。個々の対応策としては、ビート (泥炭土) の使用削減、水の節約そしてリサイクルへのアプローチと並んで、さらに優しい経済方法を追求している。

## プロジェクト「ガーベラファンメーゲンの革新的な構想」

ノルトライン ヴェストファーレン州のこの企業は、外部からの証明でなく、自らの企業に適応した持続可能性構想を発展させ、有機のフットプリント（訳注 1）の継続的な縮小をめざす。これには熱電併給プラント（訳注 2）、革新的なガラスコーティング（訳注 3）、畑の散水システム、植物の調整可能な光の照射（訳注 4）、有用ロボット、泥炭を使わない鉢での生産、紙包装（訳注 5）並びに数多くの対策が挙げられる。

この会社は 2015 年以來、自らのエネルギー使用を半減している。そして次の 10 年間で石油エネルギー無しの温室暖房を実施する。多様な経験は他の部門代表者も参加し、その分野のための灯台の役割を果たしている。

訳注 1：フットプリントー原料が採掘されて破棄されるまで、環境に対してどのくらい負荷を与えたかの計算

訳注 2：熱電併給プラントー暖房と給湯のための電気と熱の生成

訳注 3：ガラスコーティングーガラスの放射率を下げ、放射熱損失を 90%削減する。冬暖かく夏涼しさを保つ。

訳注 4：植物の調整可能な照射ー光合成促進のため植物集団に、青と赤の割合の高い発光を照射する。

訳注 5：紙包装：プラスチックに替えて生分解性のある紙の使用

### 背景：

連邦食料・農業省のドイツ革新園芸賞は、1997 年以來毎年事例を掘り起こし、そして園芸における革新的な取組みに対して、合計 15 000 ユーロ（約 225 万円）を授与している。審査委員会は園芸企業から提出された申請書を以下の基準で評価している。

- 一 革新的な品質
- 一 園芸経営の中での革新の重要性
- 一 実践での適用
- 一 市場チャンス
- 一 他の経営に対してモデルとなる役割

ドイツ園芸デーのシンボルマーク



2023年ドイツ園芸デーの会場（マンハイム）

2023年度ドイツ革新園芸賞受賞の園芸会社



有機樹木苗床ギアーズ社の圃場  
（ニーダーザクセン州）



ガーベラ ファン メンゲン社の温室  
（ノルトラインーヴェストファーレン州）

### 3 連邦食料・農業省：農村のモビリティ・ネットワークの奨励 ー農村の駅プロジェクトで交通の利便性を強化ー (2023・9・8)

奨励政策「農村の駅」プロジェクト：

政府は、1地区当たり75 000ユーロ（約1 125万円）支出する。

連邦食料・農業省は、「農村の駅ー農村地域の交通利便性（モビリティ）を結びつける」プロジェクトを奨励する。農村地域におけるモビリティを改善し、そして気候一環境に優しい交通手段を支援する。



農村の駅と組合わせた多機能ハウス

具体的には、交通駅と多機能ハウスの組合せで、農村生活の質的向上を図り、現地の魅力を高める。ドイツ地区協会（DLT）とドイツ市町村協会（DstGB）によって、この政策がサポートされる。「農村駅」でもって農村地域における乗用車（PKW）の代替えに住民の視点が動く。新しい交通手段の提供からあらゆる人々が利益を受ける。様々な理由から乗用車を持っていないか、または気候に優しい交通手段に転換したいと望む人が増えている。

加えて地方自治体は、現地として農村生活と労働に魅力を得ることができる。

例えば、奨励可能なのは交通の最後の部分での接続の改善のために、補完的な交通手段を提供する地域の駅整備構想の策定である。

その例としてバス停留所並びにオンデマンドサービス、カーシェアリング駅、駐輪場またはバッテリー充電可能なステーションなど。農村駅は最終接続を容易にするための拡張計画も奨励される。駅と組合わせた多機能ハウスには、理髪店ー美容院、理学療法の実施スペース（身体の機能障害防止ー回復）、音楽学校、コワーキングスペース（オフィスの共用）、カフェ、旅行案内所またはコンサート、イベント等の部屋が設置される。

重要な出会いの場として多機能ハウスのアクセシビリティ（高齢者や障害者が不自由なく利用可能）が向上し、ここでの滞在の質が高まる。地方自治体はローカルニーズを把握し、地域住民とともに満たすことが求められる。

この奨励政策についてオズデミール大臣が述べた：“我々の農村地域には、大きな可能性がある。これを将来に適合させながら、農村に大きな多様性を保持することを我々は支援する。このためには早急に達成可能な、そして特に機能するモビリティの提供が最も重要な要素である。人々と企業のための農村地域が、魅力的に保たれる必要がある。我々はプロジェクト「農村駅」へのアイデアを奨励する。つまり、多面的で近代的そして気候に優しいモビリティを支援し、地域の中心地でそれを可視化する構想を促進し、地元の人々を結びつける。

私はドイツ地区協会とドイツ市町村協会に、この重要なプロジェクトへの協力に対してお礼申し上げます。”

**ドイツ地区協会ラインハルト セイガー会長：**“我々は農村地域のモビリティネットワーク化のための重要な貢献として、このプロジェクトを支持する。農村地域では、しばしば個々の車所有について、有用で良くネットワーク化された代替対策が欠けている。中心的な構想には、特定の地域へのモビリティを提供し、簡単に乗り換えできることが入っている。これにはカーバイクシェアリングの提供、安全な駐輪場、電気自動車のための電子充電ステーション、そしてバスまたは列車の停留場への簡単な接続が挙げられる。我々はこのプロジェクトに多くの優れた構想と刺激を提案し、他の自治体への波及を願っている。

この方法は農村が都市と同等の生活関係を、連邦レベルで促進するものである。

**ドイツ市町村協会 Dr. ウーヴェン ブランドル：**“我々の協会は、農村地域におけるこのプロジェクト「農村駅」によって必要に応じた、そして持続可能なモビリティ提供のための重要な刺激を期待している。我々はモビリティのネットワーク化を通じて、生活に配慮した公共サービスの中心的な施設で、あらゆる場所に到達できることで、特に活力あふれる農村地域をつくり出す目的を支持する。地方自治体のレベルのために、連邦の奨励プログラムに際して、低いしきい値（低い境目となる値）と非官僚主義を奨励すること、そして事業が長期的に安定することが重要である。質的に高く特に信頼されるモビリティの提供は、自動車に関して役に立つ代替えを意味することが、経験上知られている。”

関心ある地方自治体は2023年11月30日までに自らのプロジェクト構想を、連邦農業食料局農村開発センター（BLE）に提出すること。



## 背景：

「農村駅」は、連邦プログラム「農村地域の発展と地域の価値創造 (BULEplus)」によって融資される。農村地域を強化し、そして農村と都市との同等な生活関係創出のために貢献することが、連邦政府の中心課題に位置している。目的はドイツ国民の半分以上が生活している農村地域の将来を築くことである。この連邦プログラムは、この目的達成のための手段である。連邦食料・農業省はこのプログラムでもって、将来においても農村で快適に暮らし、そして働くことができるための構想を見出す。奨励政策「農村の駅」は、このプログラム (BULEplus) の礎石である。連邦食料・農業省の委託連邦農業食料局 (BLE) が具体的に実施する。

農村の自治体に関する課題解決を、促進するためのプロジェクト構想の策定がまず奨励される。つまり、モビリティ駅と多機能ハウスを互いに結びつけ、それでもってより多くの農村住民参加と、この地域の競争力と気候保護強化のために貢献する。このプロジェクトは、多機能ハウスにあるモビリティ駅の接続とこのハウスとの組合せを含んでいる。構想段階の申請権利は市町村と地区 (郡) 並びに自治体の団体組織である。最大奨励額は1プロジェクト当たり 75 000 ユーロ (約 1 125 万円) である。一定の条件のもとで最大 3 年間奨励される。これはモビリティ駅で計画している個々の要素の実施を、スタートさせるためである。



非営利の電気自動車のカーシェアリング協会



オンデマンドバスターデジタル市民ネットワークで運営



農村でも気候に優しい電気自動車が普及



このため、充電ステーションが必須



モバイル ショッピング オプション  
移動販売車



利便性と健康の為に自転車が増えて  
いる。新しい駐輪場がオープン

#### 4 2023 年産バレイショは天候不順にも拘わらず良好な収穫を得ている —今年度第 1 次収穫量調査の結果— (2023・9・21)

2023 年産バレイショは第 1 次収穫量調査によれば、良い結果を得ている。ドイツの農業者は、前年よりも 2%多い 1 090 万 t のバレイショを収穫した。ここ数年間の平均収穫よりも約 1%多い。ドイツ連邦全体の平均で ha 当たり 41 t のバレイショが収穫され、これは 2022 年よりも約 3%以上多い量である。



ドイツでバレイショの栽培が最も多い

ここ数年間の平均収量との比較で安定した ニーダーザクセン州での収穫作結果結果を得ている。

2023 年のバレイショ作付け面積は、合計 262 600ha で 2022 年との比較で 4 000 ha 減少している。ドイツで最も重要なバレイショの産地であるニーダーザクセン州の面積割合は、ドイツ全体の 45%を占める。その際、この州の農業者は約 510 万 t の収穫量を得たが、これは 2022 年よりも約 3%少ない。

2023 年バレイショ年は、気候危機の結果を特徴づけている。バレイショ種イモは、天候条件のために植えつけが遅れ、そして寒く湿った春によって成長が遅れていった。夏は干ばつで乾燥し、7 月と 8 月は多雨で害虫の多発をもたらした。収穫作業は天候条件によって部分的に中断され、各地で遅れた。

この理由から（特に品質への視点）今年のバレイショの収穫について、目下まだ最終的な結果が出ていない。

しかし、今年の天候条件下での生育経過において、経営主がどのように行動したかによって、品質が地域的に非常に異なっている。僅かに平均を下回る収穫量、そして外国からの窮屈な提供、収穫物の成熟のズレによって、今年の新バレイショの生産者価格が前年よりも高くなっている。

### 背 景：

バレイショの収穫と品質報告（BEE）は、土壌利用調査と組合せている。

連邦全体及び州について、選択された作物の収穫量、品質に関する情報を、可能な限り早い段階で公表する任務を負っている。各州の支援をもって代表として、選定された農業経営の調査圃でのバレイショの収穫量調査が、バレイショの公的な結果となる。全体で 700 カ所弱の調査圃で 36%が第一次調査として BEE が調査する。

このため、バレイショ収穫量の最終的な結果においては、まだ大きなズレの生ずる可能性がある。



バレイショは収穫前に枯れ上がる。



乾燥のため干上がった大地を耕す。



散水でバレイショの生育を確保する。



気候変動を乗り越えて良い収穫も。

2023・9・24 訳  
青森中央学院大学  
地域マネジメント研究所  
中川 一徹